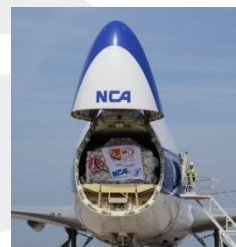


NCA：日本貨物航空 北九州空港定期便 乗り入れ 初便就航記念式典



大きなジャンボ機が消防車より放水されるアーチをくぐりスポットインした。キャプテンがタラップより降り花束を受け記念撮影。同時に機体先端のノーズが開き、先頭の貨物には北九州市制50周年とNCAロゴ入りバナーが取り付けられている。やっとここまでできたかとうれしさというより、心地良い疲労感を感じながら記念撮影を眺めていました。

2008年2月よりNCA(日本貨物航空株式会社)の九州地区GSA(販売総代理店)として小職が担当となつてから、夢にも思わなかった定期便がようやく九州に開設されました。

日本貨物航空とは日本郵船完全子会社で、日本で唯一の貨物専用機運航航空会社です。現在貨物機を12機保有しており、その内訳はボーイング747-400Fが10機とボーイング747-8Fの2機です。400F10機の内、2機は他貨物航空会社にリース中で1機はアメリカの沙漠に待機中(需要が減少しておりリース先も見つからず固定費削減の為)残りの7機と8F2機にて週45便程運航しております。

小職の仕事は、GSA業務でNCAに搭載する貨物をフォワーダー(IATA航空貨物代理店)に営業して集荷する事です。福岡地区には20社のフォワーダーが事務所を構えており競合航空会社各社と貨物を取り合っています。貨物専用航空会社であるNCAは旅客を乗せませんが、旅客航空会社(例えば、日本航空・全日空の邦人系や大韓航空・アジアナ航空・キャセイ航空などの外国系)は旅客の他に貨物も販売しており、貨物販売については競合航空会社となります。

貨物専用機は、フレイター機と呼び、旅客機をパッセンジャー機と呼びます。パッセンジャー機の貨物搭載重量は機種により異なりますがせいぜい20トンが限度です。一方フレイター機はというとNCA保有機である747-400Fで115トン、747-8Fでは、130トン搭載可能です。このフレイター機にフル搭載を目指して、営業・予約とこなしながら実績を重ね、運もつかみ、北九州空港の定期便化へ導きました。

KZ814便 北九州空港15:25着 17:25発 2時間程度駐機しております。皆さん、土曜の夕方に北九州空港へお出かけしてみませんか!?

定期初便就航記念式典は、空港ターミナル内にて弊社青山社長、石川常務にも出席頂き盛大に開催されました。福岡県の服部副知事、北九州市の北橋市長、苅田町の吉廣町長にご祝辞を頂き、何としても続けていかなければとプレッシャーが幾重にもかかっています。



国内線搭乗待合室にある関門コンテナターミナル(棟)の電照広告。門司港に元旦を除く364日24時間稼働のコンテナターミナルがあることを知らなかったというお話をよくきくのでPRをもっとしなければ!



日本貨物航空は、5月11日から北九州空港への寄航を定期化すると発表した。同社が運航する成田～ソウル(仁川)～北九州～成田路線は北九州空港へ毎週土曜日、週一便を発着させる。九州エリアは自動車、IC・電気産業など大手企業が進出しており、玄関口となる北九州空港に定期寄航することで成田経由での欧米、アジアへの高品質な同日接続サービスを提供し、九州圏・近隣の利用者利便性の向上をはかる。